

新番	旧番	プラン名	次期計画に向けた方向性		現行計画記載文章	次期計画記載文章
施策1 協働等による観光まちづくりの振興						
1	7	【重点】 観光関連ボランティア活動の推進	リーダー育成と若者や主婦層を巻き込むための工夫が必要(大学の単位取得のインセンティブや就職に有利となる、例えばボランティア表彰制度等の導入など。また、活動員の承認欲求を満たすような何かしらのインセンティブ等を検討する必要がある)。	拡充	ボランティア活動についての情報を統合し、老若男女を問わず、気軽に参加できる環境づくりを進めます。	観光関連ボランティア活動についての情報を統合し、老若男女、国籍を問わず、気軽に参加できる環境づくりを進めます。特に、表彰制度など、活動員に対するインセンティブ等を検討することで活動への参加を促進します。また、ボランティアリーダーの育成支援に取り組みます。
2	31	学生発信企画の受入及び実施	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	こだいらブルーベリーリーグをはじめ、学生が発信する企画等を受け入れ、実施する体制づくりを進めます。	小平市大学連携協議会(こだいらブルーベリーリーグ)等との連携をはじめ、学生が発信する企画等を受け入れ、実施する体制づくりを進めます。
3	2	観光関連情報の庁内共有	特に意見なし(基本的に現行内容そのまま記載)。	継続	観光まちづくりに関連する事業を(仮称)小平観光まちづくり連絡会とともに行えるよう、観光関連情報の共有をする庁内横断組織を設置します。	庁内において、観光関連情報の共有をします。
4	4	【重点】 多様な組織との連携	プラン名を「多様な組織との連携」とし、市民活動団体やTAMA観光推進協議会との連携も盛り込む。イベント等を通じて多様な団体間がつながることで更なるシナジー効果を生み出すことを目指す。	拡充	東京都の外郭団体である公益財団法人東京観光財団等との連携を強化し、協力して小平市の観光まちづくりを進めます。	公益財団法人東京観光財団等や市民活動団体、多摩観光推進協議会等との連携を強化・推進し、イベント等を通じて多様な団体がつながることで、更なる相乗効果を生み出すことを目指します。
5	5	近隣自治体との連携強化	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	広域行政圏(北多摩北部5市)としては「多摩六都広域連携プラン」(平成23年)に基づき、広域で取り組むメリットを生かして、産業・観光の魅力向上と情報発信の強化を図ります。また、広域行政圏に限らず、近隣自治体や玉川上水沿いの自治体等との連携強化を図ります。	「第四次多摩北部都市広域行政圏計画・多摩六都広域連携プラン」(令和2年度)に基づき、広域行政圏(北多摩北部5市)として取り組むメリットを生かして、産業・観光の魅力向上と情報発信の強化を図ります。また、広域行政圏に限らず、近隣自治体や玉川上水沿いの自治体等との連携強化を図ります。
施策2 情報発信の強化						
6	3	観光データの共有及び収集	若い世代には情報が届いていないとの意見から、単に情報発信を行うのではなく、情報を発信しているという周知も併せて行う必要がある(周知方法について検討が必要)。	継続	既存の観光に関するデータを(仮称)小平観光まちづくり連絡会と共有し、今後のデータ集積方針を決定する仕組みの構築を検討します。	観光に関する画像やイベント情報等のデータをこだいら観光まちづくり協会と共有し、今後のデータ集積方針を決定する仕組みの構築を検討します。集積したデータは、市報やインターネット等の様々な媒体を用い、対象の年代・性別・国籍、テーマを踏まえた多様な情報発信を行います。また、本市が持つ歴史資源等は、市の重要な観光資源であることから、鈴木遺跡資料館をはじめとした各施設に関して、包括的な広報を実施し、魅力の向上につなげていきます。
7	13	観光ポータルサイトの運用	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	地域情報を発信しているサイトは多数あるので、利用者が見つけやすいように情報を集約するための観光ポータルサイトを開設します。	地域情報を発信しているサイトは多数あるため、利用者が見つけやすいように情報を集約した観光ポータルサイトの運用を検討します。
8	14	SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の活用	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	ツイッターやフェイスブックなどの双方向に情報共有が可能なSNSを活用した情報発信を行います。	X(旧Twitter)やFacebook、YouTubeなどのSNSを活用した情報発信を行います。
9	15	【重点】 パブリシティの強化	さらに積極的に展開する旨を記載する。	拡充	小平市が多くの人の目に触れるよう、質、量ともにパブリシティの強化を図ります。	小平市が多くの人の目に触れるよう、プレスリリースを積極的に展開するなど、パブリシティの強化に努めていきます。
10	22	小平グリーンロードの活用に関わる活動 広報の強化	既に組織は存在しない(こだいら観光まちづくり協会に統合)が内容は継続する。プラン名を「小平グリーンロードの育成・管理に関わる活動広報の強化」(※シティ提案)に変更。	見直し	SNSを活用するなど、より広く小平市グリーンロード推進協議会の活動を知らせます。	小平グリーンロードの活用に関わる活動内容について、SNSをはじめとした様々な媒体を用いた広報を実施します。
11	23	地産地消の推進及び情報発信	現プラン26「農地の保全」のうち、「農産物の学校給食での使用」をこちらに統合する。	拡充	小平市で生産されている農産物を入手できる場を増やすとともに、その情報の発信を強化します。	小平市で生産されている農産物を入手できる場を増やすとともに、情報発信を強化します。また、農産物を学校給食において使用することで地産地消の取組を推進するとともに、学童農園の情報なども含めて情報を発信し、特に、子育て世代が魅力を感じるきっかけづくりに活かしていきます。
12	24	魅力ある直売所の情報発信強化	ライブ映像を活用した情報発信の強化を追加する。	拡充	多品目の地場産農産物を生かすため、魅力ある直売所の情報を整理して発信します。	多品目の地場産農産物を生かすため、魅力ある直売所の情報を整理し、ライブ映像等を活用した情報発信を行うなど、市内直売所の情報発信の強化を図ります。
13	25	観光農園情報の充実	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	市民及び来訪者のいずれもが気軽に観光農園を利用できるよう、観光農園の情報をまとめて、提供します。	だれでも気軽に観光農園を利用できるよう、観光農園の情報をまとめて、発信します。

新番	旧番	プラン名	次期計画に向けた方向性		現行計画記載文章	次期計画記載文章
14	38	地域で活動している人の紹介	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	NPOやボランティア団体、自治会、国際交流協会など、地域で活動している団体や個人にスポットを当て、多くの方に活動を広く知ってもらえるようにします。	NPOやボランティア団体、自治会、国際交流協会など、地域で活動している団体や個人にスポットを当て、多くの方に活動を広く知ってもらえるように働きかけます。
15	16	【重点】 メディア露出機会の拡大	プラン名を「メディア取材の誘致」(※シティ提案)に変更。内容的には、メディア取材を獲得するため、窓口機能の強化や市と観光協会との連携強化、各大学と連携した情報共有の推進等を盛り込む。	見直し	多くの人の目に触れる映画の撮影場所やアニメの舞台になり、知名度向上を目指すために、受入体制を整えます。	メディア取材を獲得するため、窓口機能の整備や市と観光まちづくり協会の連携強化各大学との情報共有を行います。また、情報番組等を通じ魅力あるコンテンツを発信する機会拡大を図ります。
再 2	31	学生発信企画の受入及び実施	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	こだいらブルーベリーリーグをはじめ、学生が発信する企画等を受け入れ、実施する体制づくりを進めます。	小平市大学連携協議会(こだいらブルーベリーリーグ)等と連携をはじめ、学生が発信する企画等を受け入れ、実施する体制づくりを進めます。

新番	旧番	プラン名	次期計画に向けた方向性		現行計画記載文章	次期計画記載文章
施策3 観光資源の活用や広域連携の推進、回遊性の向上						
16	8	観光案内所の機能強化	プラン名を「観光案内所の機能強化」に変更。観光案内所の周知を強化（利用しやすい場所への移転も含め）することで、より多くの来訪者を獲得する。	継続	観光情報の発信を行うほか、地元産の農産物等の直売や特産品などもあり、来訪者や市民が交流できる場の設定を検討します。	本市の観光案内所として機能を担う「こだいら観光まちづくり協会」に関する周知を強化するとともに、より多くの人に利用してもらえるよう、情報発信の強化及び利用しやすい環境づくりを進めていきます。
17	9	観光案内板の設置	基本的に現行内容そのまま記載	継続	ピクトグラムと多言語（日本語、英語、中国語及びハングル）で表記した案内板の設置に取り組みます。	ピクトグラム（絵のような視覚的記号）と多言語で表記した案内板の設置に取り組みます。
18	10 28	トイレや休憩場所の案内等、歩きたくなるまちづくりの推進	現行内容＋プラン28の内容を追加。→「また、小平グリーンロードや用水路の整備、あかしあ通りのグリーンロード化を進めることで、歩きたくなるまちづくりを推進していきます。」。プラン名を「トイレや休憩場所の案内等を通じた歩きたくなるまちづくりの推進」に変更（※シティ提案）。	拡充	小平グリーンロードをはじめとして、市内を散策する際に必要な、トイレや休憩できる場所の情報をわかりやすく提供する取組を進めます。	小平グリーンロードをはじめ、市内を散策する際に必要な、トイレや休憩できる場所の情報をわかりやすく提供する取組を進めます。また、小平グリーンロードや用水路等の景観を活かし歩きたくなるまちづくりを推進していきます。
19	11	鉄道駅からのウォーキングコースPR	学生も含めた様々な主体間で連携することで、さらに魅力的なイベントにつなげ、来訪者の獲得につなげていく。	拡充	鉄道駅を中心に、“歩くまち小平”をメインにしたきめ細かなPRを行います。	鉄道駅を中心に、“歩くまち小平”をメインにしたきめ細かなPRを行います。また、学生と行政等が連携することで、さらに魅力的なイベントに繋げ、来訪者の獲得に努めます。
20	20	ご当地キャラクターの活用	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	小平市にはぶるべー（小平ブルーベリー協議会）、地域宣伝隊コダレンジャー（小平市グリーンロード推進協議会）というご当地キャラクターがいます。これらのキャラクターはイベント等に出演するなど、子どもを中心に認知度が上がってきています。今後も出演回数を増やしたり、市外のイベントにも参加したり、露出を増やすことで小平市の知名度を上げていきます。	本市にはぶるべー、こげらん、地域宣伝隊コダレンジャーというご当地キャラクターがいます。これらのキャラクターはイベント等に出演するなど、子どもを中心に認知度が上がってきています。引き続き市内外のイベントへの出演やキャラクターのイラスト使用の機会を増やすことで市の認知度の向上を図ります。
21	26	農のある風景の活用	プラン名を「農業のある風景の活用」とし、施策6「シビックプライドの醸成」の中で位置付けを行う。	見直し	東京むさし農業協同組合と、災害時における生産緑地の活用と生鮮食料品の調達に関する協定を結んでいることや、農産物の学校給食での使用により食育の一部を担っていること等をもとに農地を守っていきます。	農のある風景は、潤いとやすらぎを与える景色として、重要な地域資源のひとつとなっています。都心から30分の距離で農とふれあえることを積極的にPRすることで、来訪者の獲得につなげるとともに、シビックプライドの醸成につなげていきます。
22	29	ストーリー性を持った歴史的景観のPR	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	玉川上水、用水路、寺院・神社など地域の歴史を掘り起こし、武蔵野新田の開発などのPR方法を検討します。特に玉川上水の小平市区間は他にない独自の景観であることの十分なアピールを行います。	玉川上水、用水路、寺院・神社、武蔵野新田の開発、地形の特徴など歴史的景観や地形のPR方法を検討します。
23	30	観光ガイドの養成	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	市内各所のエリアごとに観光ガイドを養成し、見どころ案内等を行います。	引き続きまち巡りガイドを養成し、観光資源等の見どころ案内等を行います。
24	33	企業博物館等のPR	企業博物館のPRのみならず、企業と連携した観光まちづくりの取組を強化する旨を盛り込む。	拡充	市内にはゴムとタイヤについて学べるブリヂストンTODAYや、ガスの歴史が学べるガスミュージアム等があります。これらの企業博物館の地域資源としての活用を図ります。	Bridgestone Innovation Galleryやガスミュージアム等、企業博物館等の地域資源としての活用を図るとともに、各企業等と連携した観光PRやイベント等の開催について検討していきます。
25	34	【重点】モデルコースやモデルエリアの設定及び情報提供	地域資源をつなぐ観点のみならず、鉄道事業者や学生、市内の活動団体など、様々な主体と連携することで、より効果的なモデルコースの設定や情報発信を強化していく旨を盛り込む。	拡充	小平グリーンロードや鉄道駅を中心に、丸ポストやオープンガーデンなどの地域資源、工場見学など、小平市の特色がわかるモデルコース等の設定を行い、情報提供をします。	鉄道事業者や学生、市内の活動団体など、様々な主体と連携し、小平グリーンロードや丸ポストなどの地域資源などをめぐるモデルコース等の設定を行うとともに、各主体間で連携した情報発信を行います。
26	35	地元プロサッカーチームFC東京の応援強化	基本的に現行内容をそのまま記載。	継続	小平市にはFC東京の練習場があり、地元のチームであるという意識を、市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援します。	FC東京の練習場があることから、地元のチームであるという意識を、市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援します。
27	37	アートに触れられる環境整備	武蔵野美術大学の図書館についても無料で利用できるため記載を追加する。	拡充	小平グリーンロードの狭山・境緑道には「彫刻の小径」として齋藤素巖のブロンズ像が16基17作品展示されています。また市内には「武蔵野美術大学」があり、秋には中央公園で「小平アートサイト」を開催するなど、地域と深くかわっています。これらを中心に、こだいらまちなかアートとして、市内のいたるところでアート作品に触れられる機会を増やし、PRします。	小平グリーンロード（狭山・境緑道）には「彫刻の小径」として齋藤素巖のブロンズ像が16基17作品展示されています。また武蔵野美術大学では、年間を通じて美術館を開放しているとともに、秋には中央公園で「小平アートサイト」を開催するなど、地域と深くかわっています。これらを中心に様々なアート作品に触れられる機会を増やし、PRします。

新番	旧番	プラン名	次期計画に向けた方向性		現行計画記載文章	次期計画記載文章
28	44	特産品開発の支援	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	地域ならではの特産品を確立するため、話題性のある新商品(加工品、料理)の開発と、目玉といえる定番商品の確立を支援し、姉妹都市等の商品の活用も検討します。	地域ならではの特産品を確立するため、話題性のある新商品(加工品、料理)の開発と、目玉といえる定番商品の確立を支援し、姉妹都市等の商品の活用も検討します。
29	45	小平糴うどんのPR強化	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	地域に伝わる料理である「小平糴うどん」に注目し、地域の枠を越えたPR活動により知名度の向上を目指します。	地域の枠を越えたPR活動により、「小平糴うどん」の知名度向上を目指します。
30	46	「小平産ブルーベリー」ブランド化推進	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	小平市が栽培発祥の地であるブルーベリーについて、ブランド化を推進します。	小平市が経済栽培発祥の地であるブルーベリーについて、ブランド化を推進します。

新番	旧番	プラン名	次期計画に向けた方向性		現行計画記載文章	次期計画記載文章
31	47 49	特産品の購入や休憩ができる施設づくり	基本的に現行内容そのまま記載。プラン49はプラン47とほぼ同義の内容であるため、プラン47の記載内容を基本とする。	継続	特産品の販売をはじめ、飲食や休憩などができる施設の確保について、検討します。	特産品の販売、飲食・休憩などができる施設の設置を検討します。
32	48	販路の拡大	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	市民や来訪者が特産品を入手しやすくなるよう、小平ふるさと村の特産品コーナー拡大や、JAの共同直売所の充実をはじめ、販路の拡大を図ります。	市民や来訪者が特産品を入手しやすくなるよう、小平ふるさと村の特産品コーナー拡大や、JAの共同直売所の充実をはじめ、販路の拡大を図ります。
33	50	魅力的な商店会づくり	プラン名を「魅力的な商店会づくり」とし、個人商店ならではのきめ細やかなサービスを提供することで、魅力ある地域づくりにつなげるイメージとし、住んでよし編の施策6「シビックプライドの醸成」に位置づけてはどうか(※シティ提案)。	見直し	大型店舗ではできない、商店会や小型店舗、個人商店ならではのきめ細やかなサービスを実施します。	商店会や小規模店舗、個人商店ならではのきめ細やかなサービスの提供や、人と人とのふれあい、おもてなしを通した魅力ある商店会づくり等を推進することで、シビックプライドの醸成や、住みたくなるまちづくりを推進していきます。
再 1	7	【重点】 観光関連ボランティア活動の推進	リーダー育成と若者や主婦層を巻き込むための工夫が必要(大学の単位取得のインセンティブや就職に有利となる、例えばボランティア表彰制度等の導入など。また、活動員の承認欲求を満たすような何かしらのインセンティブ等を検討する必要がある)。	拡充	ボランティア活動についての情報を統合し、老若男女を問わず、気軽に参加できる環境づくりを進めます。	ボランティア活動についての情報を統合し、老若男女を問わず、気軽に参加できる環境づくりを進めます。特に、ボランティア表彰制度など、活動員に対するインセンティブ等を検討することで、若者や主婦層のボランティア活動への参加を促進します。また、ボランティアリーダーの育成支援に取り組みます。
施策4 子どもや子育て世代に向けた観光まちづくり戦略の推進						
34	—	親子向けまち巡りガイドツアーの開催	新たに子ども・子育て世代向けガイドツアーを開催することで、子育て世代の交流人口の増加につなげていく旨を記載(※シティ提案)。	新規	—	小平市内をテーマに沿って案内をする「まち巡りガイドツアー」の新たな取組として「親子向けまち巡りガイドツアー」を企画・開催することで、子どもや子育て世代の交流人口の増加を図ります。
35	—	子育て世代を対象にした観光まちづくり情報の整備	子育て世代を対象にした環境情報の集約と効果的な情報発信を行うことで、小平市を訪れてみたいと思う子どもや子育て世代を増やしていく旨を記載(※シティ提案)	新規	—	子どもや子育て世代が訪れたい、住み続けたいと思えるきっかけになるよう子育て世代に向けた観光まちづくり情報の集約や情報発信の強化を図ります。
施策5 関連分野・組織との連携						
36	12	地域公共交通や事業者との連携強化	但し、内容的に住んでよし編のほうに入れるべきと思われる(シティ提案)。プラン名を「地域公共交通との連携強化」に変更。	継続	鉄道沿線の住民を意識し、鉄道事業者との連携をさらに進めるとともに、バス事業者等との連携を図ります。	鉄道事業者やバス事業者等との連携を図り、地域住民のスムーズな移動を支援することで、居住者の快適性の向上につなげていきます。
再 8	14	SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の活用	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	ツイッターやフェイスブックなどの双方向に情報共有が可能なSNSを活用した情報発信を行います。	X(旧twitter)やInstagram、LINEなどの双方向に情報共有が可能なSNSを活用した情報発信を行います。
再 10	22	小平グリーンロードの活用に関わる活動広報の強化	既に組織は存在しない(こだいら観光まちづくり協会に統合)が内容は継続する。プラン名を「小平グリーンロードの育成・管理に関わる活動広報の強化」(※シティ提案)に変更。	見直し	SNSを活用するなど、より広く小平市グリーンロード推進協議会の活動を知らせます。	小平グリーンロードの活用に関わる活動内容について、SNSをはじめとした様々な媒体を用いた広報を実施します。
再 11	23	地産地消の推進及び情報発信	現プラン26「農地の保全」のうち、「農産物の学校給食での使用」をこちらに統合する。	拡充	小平市で生産されている農産物を入手できる場を増やすとともに、その情報の発信を強化します。	小平市で生産されている農産物を入手できる場を増やすとともに、情報発信を強化します。また、農産物を学校給食において使用することで地産地消の取組を推進するとともに、学童農園の情報なども含めて情報を発信し、特に、子育て世代が魅力を感じるきっかけづくりに活かしていきます。
再 12	24	魅力ある直売所の情報発信強化	ライブ映像を活用した情報発信の強化を追加する。	拡充	多品目の地場産農産物を生かすため、魅力ある直売所の情報を整理して発信します。	多品目の地場産農産物を生かすため、魅力ある直売所の情報を整理し、ライブ映像等を活用した情報発信を行うなど、市内直売所の情報発信の強化を図ります。
再 17	9	観光案内板の設置	基本的に現行内容そのまま記載	継続	ピクトグラムと多言語(日本語、英語、中国語及びハングル)で表記した案内板の設置に取り組みます。	ピクトグラム(絵のような視覚的記号)と多言語で表記した案内板の設置に取り組みます。

新番	旧番	プラン名	次期計画に向けた方向性		現行計画記載文章	次期計画記載文章
再 21	26	農のある風景の活用	プラン名を「農業のある風景の活用」とし、施策6「シビックプライドの醸成」の中で位置付けを行う。	見直し	東京むさし農業協同組合と、災害時における生産緑地の活用と生鮮食料品の調達に関する協定を結んでいることや、農産物の学校給食での使用により食育の一部を担っていること等をもとに農地を守っていきます。	農のある風景は、潤いとやすらぎを与える景色として、重要な地域資源のひとつとなっています。都心から30分の距離で農とふれあえることを積極的にPRすることで、来訪者の獲得につなげるとともに、シビックプライドの醸成につなげていきます。
再 26	35	地元プロサッカーチームFC東京の応援強化	基本的に現行内容をそのまま記載。	継続	小平市にはFC東京の練習場があり、地元のチームであるという意識を、市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援します。	FC東京の練習場があることから、地元のチームであるという意識を、市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援します。

新番	旧番	プラン名	次期計画に向けた方向性		現行計画記載文章	次期計画記載文章
再 27	37	アートに触れられる環境整備	武蔵野美術大学の図書館についても無料で利用できるため記載を追加する。	拡充	小平グリーンロードの狭山・境緑道には「彫刻の小径」として齋藤素巖のブロンズ像が16基17作品展示されています。また市内には「武蔵野美術大学」があり、秋には中央公園で「小平アートサイト」を開催するなど、地域と深くかかわっています。これらを中心に、こだいらまちなかアートとして、市内のいたるところでアート作品に触れられる機会を増やし、PRします。	小平グリーンロード(狭山・境緑道)には「彫刻の小径」として齋藤素巖のブロンズ像が16基18作品展示されています。また武蔵野美術大学では、年間を通じて美術館を開放しているとともに、秋には中央公園で「小平アートサイト」を開催するなど、地域と深くかかわっています。これらを中心に様々なアート作品に触れられる機会を増やし、PRします。
施策6 市民主体性の醸成						
37	6	【重点】 観光まちづくりに関する人材の育成	まち歩きガイド養成講座は、毎年10人以下の受講者がいるが、高齢化しており、また、数年で抜けられることが問題(まちあるきガイド自体は人気がある)。そのため、今後は、若者をどう巻き込んでいくかが課題であり、若者を巻き込むための取組の工夫が必要。	拡充	公民館講座等の生涯学習などと連携し、観光まちづくりを担う人材の育成を図ります。	現在実施しているまち巡りガイド養成講座は、高齢化やガイドとしての活動年数が短い現状があることから、若者を含めた担い手の確保・育成に資する取組の強化を図ります。また、公民館講座等の生涯学習などと連携し、観光まちづくりを担う人材の育成を図ります。
38	17 32	観光まちづくり大使の任命	観光大使の活躍の場の拡大を図るとともに、市の観光大使をもっと市民に知ってもらう取組の強化も図る必要がある。さらに、若い世代への認知度を高める取組(例:ユーチューバー等を観光大使にするなど)を検討していく必要性を盛り込む。また、プラン32「市内各学校の出身者へのアプローチ」の内容を追加。	継続	小平ゆかりの著名人を観光まちづくり大使に任命し、市のPRをしていただくことを検討します。	市内の出身者など、小平ゆかりの著名人を観光まちづくり大使に任命し市のPRにつなげます。また、動画投稿者等の新たな観光まちづくり大使の任命を検討するなど、若い世代への認知度を高めます。また、観光まちづくり大使の活動の場の拡大と認知度の向上を高める取組を実施します。
39	27	調べ学習等による郷土教育の充実	小学校のみならず、中学校での調べ学習の実施についての働きかけを強化する旨を追加する。	拡充	学校教育におけるの調べ学習の機会を利用し、「としょかんこどもきょうどしりょう」や視聴覚ライブラリーのビデオ教材等により子どものうちから小平の歴史に慣れ親しんでもらいます。	小・中学校の学校教育の場におけるの調べ学習の機会を利用し、子どものうちから小平の歴史や文化に慣れ親しんでもらうことで、シビックプライドの醸成につなげていきます。
再 13	25	観光農園情報の充実	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	市民及び来訪者のいずれもが気軽に観光農園を利用できるよう、観光農園の情報をまとめて、提供します。	だれでも気軽に観光農園を利用できるよう、観光農園の情報をまとめて、発信します。
再 14	38	地域で活動している人の紹介	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	NPOやボランティア団体、自治会、国際交流協会など、地域で活動している団体や個人にスポットを当て、多くの方に活動を広く知ってもらえるようにします。	NPOやボランティア団体、自治会、国際交流協会など、地域で活動している団体や個人にスポットを当て、多くの方に活動を広く知ってもらえるようにします。
再 21	26	農のある風景の活用	プラン名を「農業のある風景の活用」とし、施策6「シビックプライドの醸成」の中で位置付けを行う。	見直し	東京むさし農業協同組合と、災害時における生産緑地の活用と生鮮食料品の調達に関する協定を結んでいることや、農産物の学校給食での使用により食育の一部を担っていること等をもとに農地を守っていきます。	農のある風景は、潤いとやすらぎを与える景色として、重要な地域資源のひとつとなっています。都心から30分の距離で農とふれあえることを積極的にPRすることで、来訪者の獲得につなげるとともに、シビックプライドの醸成につなげていきます。
再 26	35	地元プロサッカーチームFC東京の応援強化	基本的に現行内容をそのまま記載。	継続	小平市にはFC東京の練習場があり、地元のチームであるという意識を、市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援します。	FC東京の練習場があることから、地元のチームであるという意識を、市民も選手も持てるようにするために、地域ぐるみで応援します。
再 30	46	「小平産ブルーベリー」ブランド化推進	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	小平市が栽培発祥の地であるブルーベリーについて、ブランド化を推進します。	小平市が経済栽培発祥の地であるブルーベリーについて、ブランド化を推進します。
施策7 特色ある自分たちのイベントづくり						
40	39 40 42	市民や様々な主体が連携したイベントづくり	プラン名を「市民や様々な主体が連携したイベントづくり」(※シティ提案)とし、プラン39.40.42の内容を記載するとともに、情報の一元管理と効果的な発信のあり方について検討していく旨を追加(※シティ提案)。	統合 拡充	市民や来訪者にアピールするようなテーマ別(食、農、アートなど)のイベントを企画します。	市民や様々な主体が参加し、小平でしか味わえない付加価値のある話題性・インパクトに富んだイベントを企画、実施、支援するとともに、まつり等は準備段階から多くの市民が参加できる環境づくりを進めます。また、年間イベント情報の集約・一元管理を行う仕組みづくりと、様々な主体が連携した効果的な情報発信のあり方について検討を行っていきます。
41	21	イベントの質の向上	基本的に現行内容そのまま記載。	継続	小平グリーンロード沿いで現在開催しているイベントにおいてニーズ調査を行う等、集客力を向上させる方法を探ります。	市内で開催するイベント等においてニーズ調査を行い、集客力・来訪満足度を向上させる方法を探ります。
42	41 43	小平の伝統行事に関する魅力ある情報発信	プラン名を「小平の伝統行事に関する魅力ある情報発信」(※シティ提案)とし、鈴木ばやし(山車)を用いたまつりや灯りまつりの準備段階からの様子を発信することで、地域のつながりや一体感を伝え、このまちに住んでみたい、住んで良かったと思う意識の醸成につなげていく旨を記載。(※シティ提案)	統合 拡充	SNS等を利用し、イベント開催のお知らせという形ではなく、準備の様子も発信することで、大勢の方にかかわりを感じてもらえるような仕組みづくりを行います。	市内には特色のあるまつりなどの伝統行事が多く残っています。これらを絶やすことなく守り伝えていくためにも、今後も継続して開催するとともに、より多くの人に届くよう情報発信のあり方を工夫する必要があります。また、多くの方に関わりを感じてもらう仕組みづくりのため、SNS等を利用し、準備の様子も発信します。